独立野砲兵第一〇連隊略歴

通称名　築第二九一二三部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 5 23	軍令陸甲第八二号により編成下令	
7 10	平壌師管区砲兵補充隊が編成担任となり平壌において編成完結。 基幹人員約三五〇名 爾後未教育兵の教育を実施	
自7 7 至 2015	現地応召者入隊 日系人　約九〇〇名位 鮮系人　約六五〇名位	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦	
8 17	現地召集解除（約一、〇〇〇名）但し日系軍人は再召集	
8 26	三合里において武装解除	
9 2	平壌美勒洞廠舎に収容	
10 24	同廠舎出発、鉄道作業隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	6	27	北鮮興南港出帆
	6	28	「ポセット」港到着
			隊長　中佐　加藤義雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立高射砲第四二大隊略歷

通称号　築第七四四一部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭18	9	20	朝参動第七六三号により防空第四二連隊を改編し平壌において独立高射砲第四二大隊編成完結	
昭19	10	14	軍令陸甲第一三七号により編成改正下令	
	11	5	朝参動第一六五一号により編成改正着手	
	11	16	編成改正完結	
昭20	8	1	現地応召者　約二〇〇名入隊	
			爾後平壌兼二浦新義州興南の要地防空に任ず。	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	
自	8	19	現地応召者を召集解除	
至	8	25	平壌において武装解除	
昭21	9	3	三合里に収容され第四、第五、第六作業隊に編入、雑役作業に従事	
	4	26	平壌飛行場において作業。	
	4	29	三合里に再び入所	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自	5	6	三舎里出発、秋乙収容所入所
	6	18	秋乙収容所出発
至	9 6	2021	興南経由入「ソ」 興南派遣隊（第三中隊）
昭20	8	24	平壌本隊に合流すべく興南出発
	8	28	平壌東方勝湖里において朝鮮治安隊に遭遇し各個に脱出し、ほとんど平壌本隊に合流、爾後本隊と同行動 隊長　中佐　乾　奎　三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立自動車第七〇大隊第二中隊略歴

通称号　築第二一〇八部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭16	7		東安省斐徳において自動車第六連隊を改編し独立自動車第七〇大隊（満七四部隊）となり爾後自動車関係部隊の補充隊的任務を担任す。	
昭20	5		ごろより第五軍管下補給廠（第一七野戦貨物廠、同野戦兵器廠、同野戦自動車廠）等へ各中隊から人員を派遣す。	
	7	13	斐徳より南鮮太田に移駐（通称号を築第二一〇八〇部隊と改む）と同時に第二七方面軍司令官の隷下に入る。	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	
	8	17	第二中隊は輸送業務のため平壌に北上、同地において武装解除（人員約一七三名）（第二中隊以外は南鮮経由帰還）	
	9	5	三合里に収容され第二一作業大隊に編入	
	12	19	同地出発	
	12	31	興南着（第一四作業大隊となる）	
昭21	1	31	興南港出発　入「ソ」	
	6	6	中隊長　中尉　西川彰一	

自 8 4 8
至 8

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立野砲兵第一一大隊略歴

通称号　展第一四八四部隊
　　甲第一四八四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	2	15	軍令陸甲第一一号により編成下令	
	3	15	河北省石門において野砲兵第四二連隊、北支邦砲兵、下支官候補者隊よりの要員を基幹とし現地召集者数十名を充当して編成完結	
			編成	
			大隊本部、大隊長、小佐、小川忠治	
			第一中隊　長　大尉　渡辺庭太郎	
			第二中隊　長　大尉　片山嘉成	
			第三中隊　長　大尉　福島三千郎	
			大隊段別　長　中尉　中渡瀬清香	
	4	中旬	河南作戦参加のため石門出発	
	4	20頃	河南省鄭州着	
	5	23	より洛陽攻略作戦参加	
	6	1	湘桂作戦参加	
	7	13	信陽着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	7 22	漢口着
	8 初旬	湖南省武昌着
	8 20頃	衡陽着
	9 10	より湖南作戦参加
	12 20頃	来陽着、作戦参加ならびに警備
	2 中旬	来陽発
	5 21	浙江省嘉興着、同地付近の警備
	6 14	移駐のため嘉興出発
	6 19	満支国境山海関通過
	6 21	鮮満国境安東通過
	6 22	朝鮮咸興南道咸興着
		同日より同地付近の警備ならびに陣地構築
	8 15	停戦
	8 24	咸興において武装解除富坪に収容さる。
	9 中旬	作業大隊編成
	10 7	富坪出発
	10 9	興南港出発
	10 12	入「ソ」（ウラジオストック）

隊長　少佐　小川忠治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

牡丹江重砲兵連隊略歴

通称号　展第四三八七部隊
　　満第六五八部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭15	7	10	軍令陸甲第一四号により編成下令	
昭16	11	20	関参編第八八〇号により編成基幹要員教育のため野戦重砲兵第一、第四、第九、第二〇連隊および重砲兵第二、第三連隊より各々将校二名、下士官二名計二十四名を阿城駐屯の重砲兵第二連隊に集合せしめ教育を実施した。	
昭17	3	1	臨時編成甲下令	
	3	15	前記部隊の人員を基幹とし阿城において編成完結。同日より同地付近の警備	
自10.9 至10.22			移駐のため阿城出発	
自12.23 至			牡丹江省下城子着。同日より同地付近の警備	
自昭19 至	7	11	主力をもつて綏芬河地区作戦道路作業	
昭20	6		稜稜陣地構築、主として作戦道路作業	
	7	下旬	第三四軍隷下に編入され昭和二十年八月二十五日迄に朝鮮咸興に移駐完了の予定にて移転準備中日「ソ」開戦となる。	
	8	9	日「ソ」開戦にともない第五軍司令官の命令により第一二四師団長の指揮下に	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		入り穆稜陣地守備のため下城子出発。
8	10	夕刻迄に穆稜陣地に入り連隊本部、第一大隊は小豆山陣地に第二大隊は北林台陣地に配備。
8	12	第二大隊正面は早朝より「ソ」軍の砲撃をうけ正午近くより戦車および歩兵部隊と交戦次第に圧迫され夕刻最後の突撃を実施す。
8	13	より「ソ」軍は、連隊主力方面の砲撃を開始、ついで戦車、歩兵部隊等と交戦、次第に陣地に侵入され十五日払暁よりさらに熾烈なる攻撃をうけたので同日昼頃全員突撃を敢行したが連隊長以下多数の戦死傷者を生じ集結不可能となる。前記のとおり連隊は殆んど四散し小行動群にわかれ敦化、間島、蘭崗、牡丹江等にいたり所在部隊と同行動し、わずかに第二大隊長に掌握された約一五〇名の者は牡丹江の守備についたが、ついで横道河子に後退武装解除の後拉古に収容された。
9	5	拉古第十八作業大隊編入
9	11	同地出発
9	20	綏芬河経由入「ソ」
8	2	綏芬河伐採作業隊 山崎少尉以下約五〇名下城子出発、同日綏芬河着。伐採作業従事
8	9	連隊本部よりの連絡により帰隊準備中午後二時頃「ソ」軍戦車の攻撃をうけ四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8.5.7の3

散し一部の者は同夜半出発十六日下城子通過、二十三日石頭付近にて第一二四師団に合流同行動。

隊長　大佐　瀬　纐　哲　三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

迫撃第一五大隊略歴

通称号　展第三一五五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	2	15	軍令陸甲第一一号により編成下令	
	3	10	斉々哈爾において在満各隊からの転入者を基幹として編成完結	
	3	24	斉々哈爾出発	
	3	26	山海関通過	
	3	29	安徽省着	
	4	5	同地出発	
自	6	10	湖南省長沙作戦に参加	
至	6	20		
自	8	21	湖南省衡陽攻略作戦に参加	
至	6	8		
自	9	21	広西省桂林攻略作戦に参加	
至	11	11		
自昭20	1	16	粤漢作戦に参加	
至	1	28		
	3	17	同地出発	
	4	19	湖北省武昌到着	
4	29		湖北省漢口出発	
	5	12	上海到着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

6	12	上海出発
6	17	満支国境山海関通過
6	19	鮮満国境安東通過
6	20	咸境南道咸興着
8	9	日「ソ」開戦
8	15	咸興南方定平西方高地において陣地構築中停戦
8	20	咸興において武装解除
8	25	「ソ」軍の指示により第三四軍の統制の下に将校と下士官以下に分離され将校は定平に下士官以下は富坪に収容せらる。
9	中旬	下士官兵は富坪第一四作業大隊に編入
10	7	富坪出発
10	9	興南経由入「ソ」
10	24	将校は定平出発、本宮収容所に収容
10	30	興南港出帆
11	3	入「ソ」「ウラジオストック」

隊長　中佐　伊井伴造

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第五六連隊略歷

通称号　展第一四〇五六部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	7	31	四平において電信第三一連隊を基幹として編成完結	
	8	9	四平出発	
	8	13	朝鮮咸興着	
	8	15	停戦	
			主力の行動	
	8	26	咸興において武装解除	
	8	27	咸興出発	
	8	29	富坪到着	
	10	1	富坪において第一五作業大隊編入	
	10	7	富坪出発　興南到着	
	10	9	興南港出発　入「ソ」	
			一部の行動	
	8	20	有線第一中隊第三小隊は市内爆撃後の電話線の復旧作業のため北鮮吉州	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	23	羅南方面に派遣
9	20	吉州において武装解除
		咸興中学校に到着。木下大隊に収容後、咸興第二四作業大隊（小松大隊）に編入
12	27	興南港出発　入「ソ」
		隊長　少佐　秋　間　喜　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立自動車第一一五大隊略歷

通称号　展第一七〇一五部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
8 5	新京において独立自動車第六四大隊を基幹として編成完結	
8 9	第一中隊の二ケ小隊は朝鮮咸鏡南道定平の扶翼部隊に配属され輸送業務に従事したが八月二十四日帰隊した。	
8 13	咸鏡南道咸興着、新京、咸興間の衣兵団移動の糧秣被服輸送に従事。	
8 15	停戦	
8 18	咸興において武装解除	
8 23		
8 24	残余の第一中隊一ケ小隊は部隊相互間の輸送と「ソ」軍に引渡す兵器弾薬等の集結、輸送に従事。	
9 2	富坪に移動	
10 1	富坪において第一五作業大隊に編入	
10 7	富坪出発	
10 9	興南経由入「ソ」	

隊長　大尉　古谷裕典

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設建築勤務第一〇七中隊略歷

通称号　展第三六五七部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭20	1	13	牡丹江において編成	
	2	8	牡丹江出発	
	2	15	北京に到着	
	2	20	より虎作戦に参加（鄭州ー許昌ー壌城ー方城ー南陽ー新野）	
	5	30	原隊復帰、北京城壁に燃料、弾薬庫の施設作業に従事	
	6	10	通化省臨江県臨江（満支国境通過）に移動。	
			同日より築城作業用器材及資材集結作業に従事	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	臨江において停戦	
	8	19	部隊の命令により現地解散	
	8	19	部隊の命令により現地解散	
			爾後独自の行動をとる。一部の者は奉天、哈爾浜等において同地各作業大隊に編入して入「ソ」しているものもある。	
			中隊長　中尉　浅野石雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

永興湾要塞司令部略歴

通称号

年	月	日	略歴	摘要
昭16	8	18	臨時編成下令	
	8	21	朝鮮元山において編成完結	
	11	16	軍令陸甲第八一号により編成改正着手	
	11	20	咸鏡南道元山において編成改正完結	
昭20	8	9	対ソ開戦	
	8	15	停戦	
	8	22	元山において武装解除	
	8	29	元山出発	
	8	31	咸鏡南道富坪に集結	
	9	1	富坪第一六作業大隊に編入	
	10	10	富坪出発	
	10	16	興南経由入「ソ」	
	8	30	一部将校は咸鏡南道富坪に移動	
	9	3	咸鏡南道宣徳に移動	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至			
9	9	10 9	
10	22	25	
宣徳第一一作業大隊に編入	宣徳出発	興南経由入「ソ」	司令官　大佐　多田勇夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

永興湾要塞重砲兵連隊（永興湾要塞砲兵隊）略歴

通称号　展第七四〇三部隊

年月日	略歴	摘要
昭16 8 18	臨時編成下令	
8 21	元山において編成完結	
昭20 2 20	軍令陸甲第一二号により編成改正下令	
2 25	咸鏡南道元山において編成改正完結（永興湾要塞重砲兵連隊を永興湾要塞砲兵隊と改称）	
8 1	同日虎島第一砲台に進駐専ら教育訓練、戦備の増強に従事	
8 9	教育召集	
8 8 13	日「ソ」開戦	
8 14	夜間爆撃があつたが損害なし	
8 15	停戦、鮮人を召集したが十七日現地で解散帰郷させた。停戦とともに兵員を集結。	
8 16	第六中隊全員解散	
自8 22 至8 25	元山において武装解除。爾後元山海軍航空廠に集結。	
8 27	将校は富坪にて将校大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	8	宣徳に移動
	9	29	本宮に移動
	10	29	興南経由入「ソ」
	9	7	下士官兵は富坪第一九作業大隊に編入
	10	10	富坪出発　興南女学校に移動
	12	23	興南経由入「ソ」
			隊長　少佐　二田口牛雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四六一大隊

通称号　展第七四八三部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 1 4	軍令陸甲第一号により編成下令	
2 25	第一中隊は咸鏡南道高原、他は元山で編成完結、常備員、将校三名、准士官、下士官八名	
	次の担当区分により沿岸及重要施設の警備に任ず。	
	第一中隊　永興湾要塞巣鷹津にて陣地構築作業奉仕隊（鮮人約一五〇名）をもつて陣地構築	
	第二中隊　虎島永興湾要塞築城援助のため派遣	
	第三中隊　元山府内外重要施設防衛	
	第四中隊　永興湾要塞虎島半島に配備	
8 9	日「ソ」開戦	
8 13	臨時防衛召集下令、兵は鮮人を召集し教育を兼ね警備にあたる。	
8 15	防衛召集を発令する予定のところ停戦となり中止。停戦とともに鮮人兵は全員召集解除	
8 21	本部、第三中隊は元山において武装解除	
8 23	第一中、第二中、第四中隊は虎島半島松ケ浜桟橋で武装解除。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	25	各中隊とも元山海軍航空隊に集結
9	3	将校は武装解除後宣徳収容所に入所
9	29	本宮収容所を経て
11	2	興南経由入「ソ」
8	31	下士官兵は富坪に移動
10	上旬	興南に移動し第一九作業大隊に編入
12	24	興南出発入「ソ」

隊長　大尉　柴田欣一郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三七師団司令部略歴

通称号　扶翼第三七二四七部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において第七九師団の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。	
			爾後同地付近の警備ならびに陣地構築	
	8	9	日「ソ」開戦により定平に移動、	
	8	13	定平に集結完了	
	8	15	停戦	
	8	20	平壌に移動	
	8	25	同地において武装解除	
	9	2	将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
	10	24	将校は将校大隊編入美勒洞出発	
	10	30	興南港出発	
	11	2	入「ソ」（ポセット）	
	9	13	下士官兵は三合兵において作業第一一大隊に編入	
	10	20	三合里出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21		
6	6	10
9	5	下旬
入「ソ」（ポセット）	興南港出発	興南着
師団長　中将　秋山義充		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第三七四連隊略歴

通称号　扶翼第三七二三八部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において歩兵第二八九連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。爾後同地付近において陣地構築	
	8	9	日「ソ」開戦により定平に移動同地西方万年山付近において陣地構築作業	
	8	15	停戦	
	8	16	停戦命令により定平に集結朝鮮出身兵を召集解除	
	8	20	平壌に移動	
	8	25	現地応召者の多くは解散	
	8	26	同地において武装解除	
	9	2	将校は羊勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	3	下士官兵は作業第八大隊に編入	
	11	10	三合里出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

883の2

12

24

興南港出発入「ソ」

連隊長　大佐　竹林凡夫

2247

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第三七五連隊略歴

通称号　扶翼第三七二三九部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道会寧において歩兵第二九〇連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結	
	8		爾後同地付近の陣地構築	
	8	11	会寧出発定平に移動	
	8		同地付近において陣地構築作業	
	8	15	停戦	
	8	16	朝鮮出身兵を召集解除	
	8	18	定平出発	
	8	20	平壌着	
	8	26	同地において武装解除。現地応召者の多くは解散	
	9	2	奨校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
			爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	10	下士官兵の主力は作業第九大隊に一部は作業第一一大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭21	自	自	
至	至	至	
6 1	1010	1010	
5 11	2624	2620	
興南港出発、入「ソ」	興南着	三合里出発	
連隊長 大佐 船木健次郎			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第三七六連隊略歴

通称号　扶翼第三七二四〇部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において歩兵第二九一連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。爾後同地付近の陣地構築。	
	8	12	日「ソ」開戦により羅南出発定平に移動	
	8	15	同地付近において陣地構築作業停戦	
	8	16	朝鮮出身兵召集解除	
	8	21	定平出発	
	8	23	平壌着	
	8	26	同地において武装解除。現地応召者の多くは解散	
	9	2	将校は美勒洞に、下士官兵は三合里に収容さる。爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	9	下士官兵は作業第一〇大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

12	12	10
27	24	23
入「ソ」	興南港出発	三合里出発

連隊長　大佐　林　信　行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三七師団挺進大隊略歴

通称号　扶翼第三七二四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲方一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において騎兵第七九連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結	
	8		爾後同地付近の陣地構築。	
	8	11	日「ソ」開戦により定平に移動	
			同地付近において陣地構築作業	
	8	15	停戦	
	8	16	朝鮮出身兵召集解除	
	8	19	平壌に移動	
	8	28	同地において武装解除。　現地応召者の多くは解散	
	9	2	将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
			爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	末	下士官兵は作業第一二大隊に編入	
	10	23	三合里出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21		
6	10	一部興南港出発入「ソ」
5	28	主力興南港出発入「ソ」
大隊長 大尉 米村忠光		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野砲兵第一三七連隊略歴

通称号　扶翼第三七二四三部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において山砲兵第七九連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。	
			爾後同地付近の陣地構築	
	8	11	日「ソ」開戦により定平に移動	
			同地付近において陣地構築	
	8	15	停戦	
	8	19	平壌に移動	
	8	24	同地において武装解除	
			現地応召者の多くは解散	
	9	1	将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
			爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	13	下士官兵は作業第一一大隊に編入	
	10	20	三合里出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

887の2

自昭21至		
6 10	10	
5 27	下旬	
興南港出発入「ソ」	興南着	
連隊長 少佐 大津山勝二		

2255

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

工兵第一三七連隊略歴

通称号　扶翼第三七二四四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道会寧において工兵第七九連隊の差出人員を基幹とし、南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。爾後同地付近の陣地構築	
	8	11	日「ソ」開戦により同地出発定平に移動同地付近において陣地構築	
	8	15	停戦	
	8	23	平壌着	
	8	26	同地において武装解除	
	9	1	現地応召者の多くは解散将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	5	下士官兵は三合里において作業大隊編入	
	10	下旬	一部の者は興南に移動	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	1	中旬	主力三合里出発
	1	下旬	興南着
	5	4	興南鈴木作業大隊に編入（長大尉　鈴木和夫）
	6	6	興南港出発
	6	9	入「ソ」連隊長　少佐　岳村柾

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

輜重兵第一三七連隊略歴

通称号　扶翼第三七二四五部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成完結	
8 5	朝鮮咸鏡北道羅南において輜重兵第七九連隊の差出人員を基幹とし南満および朝鮮よりの召集者を充当して編成完結	
	爾後同地付近の陣地構築	
8 10	日「ソ」開戦により国境出発	
8 12	定平着。同地付近の陣地構築。	
8 15	停戦	
8 18	定平出発	
8 20	平壌着	
8 26	同地において武装解除	
	現地応召者の多くは解散	
9 1	将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
	爾後将校は司令部将校と同行動	
9 5	下士官兵は作業大隊編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	1	中旬	三合里出発
	1	下旬	興南着
	5	4	興南鈴木作業大隊に編入（長、大尉鈴木和夫）
	6	6	興南港出発
	6	9	入「ソ」
			連隊長　少佐　立　間　至

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三七師団通信隊略歴

通称号　扶翼第三七二四六部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において第七九師団通信隊の差出人員を基幹とし南満、朝鮮よりの召集者を充当して編成完結。爾後同地において通信業務に従事	
	8	11	日「ソ」開戦より羅南出発	
	8	13	定平着	
	8	15	停戦	
	8	21	平壌に集結	
	8	25	同地において武装解除	
	9	1	現地応召者の多くは解散 将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
	9	5	爾後将校は司令部将校と同行動 下士官兵は作業第一二大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21		
6	6	11	10
7	5	3	25
入「ソ」	興南港出発	興南着	三合里出発
隊長 大尉 小原厳			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三七師団兵器勤務隊略歴

通称号　扶翼第三七二四七部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲南一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において第七九師団兵器勤務隊差出人員を基幹とし在満召集者を充当して編成完結。	
	8	11	爾後同地において兵器勤務に従事	
	8	15	日「ソ」開戦により定平に移動	
	8	19	同地付近において陣地構築	
	8	22	停戦	
	8	26	定平出発	
	9	4	平壌着	
	9	13	平壌秋乙において武装解除	
			現地応召者の多くは解散	
			将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容さる。	
			爾後将校は司令部将校と同行動	
			下士官兵は作業第一一大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭21 20 至	自昭21 20 至	自昭21 20 至	
6 9	6 10	7 6	
26 30	30上旬	18 5	
この間遂次三合里出発	興南着	興南港出発入「ソ」	隊長　大尉　宮田鹿之助

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三七師団病馬廠略歴

通称号　扶翼第三七二五一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
	8	5	朝鮮咸鏡北道羅南において第七九師団病馬廠の差出人員を基幹とし在満召集者を充当して編成完結。爾後同地において病馬の収容、療養等に従事	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	11	定平に移動	
			同地付近の陣地構築	
	8	15	停戦	
	8	18	定平出発	
	8	23	平壌着	
	8	26	同地において武装解除	
			現地応召者の多くは解散	
	9	8	将校は美勒洞に、下士官兵は三合里に収容さる。	
			爾後将校は司令部将校と同行動	
	9	13	下士官兵は作業第一一大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21		
6	6	10	10
7	5	26	23
入「ソ」	興南港出発	興南着	三合里出発
廠長 獣大尉 西沢澄男			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp